

Newsletter

Vol.13 2010.12.1

日本養護教諭養成大学協議会

事務局：岡山大学大学院教育学研究科

高橋 香代

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

TEL&FAX 086-251-7699

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	養成大学の展望ー北から南ー・・・・・・・・・・	4
総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	選挙についての活動経過報告・・・・・・・・・・	6
養成教育ワークショップ（WS）報告・・・・・・・・	2	事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・	6
各種委員会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6

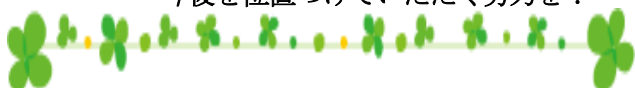


協議会副会長挨拶

総務担当 後藤ひとみ

(愛知教育大学)

教員養成改革の中に養護教諭養成の
今後を位置づけていただく努力を！



本協議会の組織は、今期より副会長3名の役割分担をより明確にして、各々の業務内容に合わせて他の理事の担当を分けるという体制をとることになりました。同時に、3つの常設委員会（教育課程検討委員会、養成制度検討委員会、FD活動委員会）へのかかわりについても再確認し、理事はいずれかに所属すること、副会長は各委員会に1名ずつ参加すること、会長は委員会活動全体を統括することなどとなりました。これらの組織づくりによって、以前にも増して機能的な体制になったのではないかと思います。

私が担当する「総務」の理事は3つの部署の中で最も少なく、三木とみ子理事（女子栄養大学）のみですが、お互いの経験を生かして、協議会運営を支える諸規定の整備などを進めてまいりたいと思います。また、「養成制度検討委員会」の委員長も兼務することになり、この9月には養成教育ワークショップの企画・運

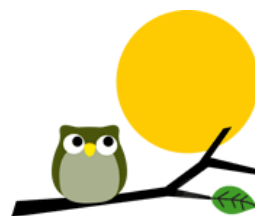
営をさせていただきました。4月からの立ち上げで準備を急ぎましたが、委員会メンバーである有能な理事の方々に支えられ、好評にて終わることができましたことを感謝いたしております（詳細は後述の通りです）。

養成教育ワークショップの全体総括で指摘されたように、協議会の意見をいかに文部科学省に伝えていくかは大きな課題ですが、高等教育局大学振興課教員養成企画室の方などとお話すると、教育現場にかかわった経験のある方は養護教諭の役割の重要性をとてよく理解してくださっていると感じます。その一方で、中央教育審議会の「教員の資質能力向上 特別部会」の協議には、現時点では養護教諭のことは挙げられていないようです。同企画室長からは、部会では様々な意見が出されているため、現在はその調整を行って、部会としてのまとめを行っている旨の話しを伺いました。教員改革の全体像はなかなか見えてきませんが、養護教諭養成制度にかかわる議論を早めに察知するよう努力したいと思っています。私事ですが、4月より2年任期で本学の教育科学系（60名ほどの規模）の学系長を拝命しています。校務は増えていますが、今まで知ることのなかった大学運営について学ぶことが多々あり、視野を広げるといふ経験になっているように思います。今後とも、よりよい養護教諭養成のために頑張ってまいりますので、ご助言とご支援のほどをお願い申し上げます。



平成 22 年度 総会報告

古賀由紀子（九州看護福祉大学）



日本養護教諭養成大学協議会 2010 年度総会は、平成 22 年 9 月 3 日午前 10 時から 10 時 45 分まで、東京都港区にあるキャンパス・イノベーションセンターの一階にある国際会議場で開催されました。

津島ひろ江副会長の司会により開会宣言がなされ、高橋香代会長挨拶の後、定数確認が行われました。会員大学 104 校、議決権を有する大学 97 校、出席 76 校、委任状提出 8 校で総会成立要件が満たされたことが確認されました。

続いて議長選出が行われ、岡田加奈子副会長と小林央美評議員が議長に選出され、議案の審議が行われました。

議案 1「2009 年度事業報告及び 2010 年度（2010 年 4 月～2010 年 9 月）事業報告」、議案 2「2009 年度決算報告」、議案 3「2009 年度監査報告」、議案 4「2011 年度事業計画案」、議案 5「2011 年度予算案」が審議のうえ承認されました。議案 6「会則等の改正について」第 8 条の 4 項、「役員選出規定」を「理事選出に関する規定」と語句修正することが提案され承認されました。また評議員より、第 8 条改正案の「1～4 項」が「5～8 項」と間違っ て印刷されていることが指摘され、「1～4 項」と語句修正の後改正案が承認されました。議案 7「選挙管理委員の選出について」は選出規定により、関西福祉科学大学大川尚子先生、畿央大学岡本啓子先生、大阪教育大学北口和美先生の 3 名に委嘱したことが報告され承認されました。議案 8「監事の選出について」高橋香代会長より、役員は理事 14 名、監事 2 名となっているが、会員資格が無くなったことにより現在、監事が 1 名欠員となっていることが説明され、会計監査の任の重要性から、改訂が既に決定している役員会規定第 1 条の 2 項により、欠員分を補充したい旨が提案され、監事の欠員補充について承認されました。その後、高橋香代会長より東京学芸大学の竹鼻ゆかり先生が監事に推薦され、承認されました。

その他の議案について意見はなく議事は無事終了し、議長が解任され、津島ひろえ副会長が閉会宣言を行い総会は終了しました。

養成教育ワークショップ (WS) 報告

河田史宝（金沢大学）

今年度の WS は、養成制度検討委員会の担当により、「これからの養護教諭養成の課題と展望」のテーマのもと開催されました。まず、講演「今後の教員養成の動向について」(文部科学省高等教育局大学振興課教職大学院企画係長 須原愛記氏)の後、後藤委員長の趣旨説明、配布資料をもとに 3 グループに分かれて協議を行いました。

この WS では、これからの養護教諭養成の現代的課題を、①何が問題であり、課題か ②どうありたいか ③本協議会がなすべきことは何かの 3 点について、その解決に向けた具体的取り組みを協議しました。

「A 教育職員免許法の内容について」では、専門科目及び実習のための履修科目単位数が 28 時間では少ないことや各大学の設定の形態、実情での内容読み替え等の問題から、「カリキュラムや実習を含めた履修カルテの全体性、連続性を考える」必要性が示され、資質向上のためのモデルカリキュラムを本協議会が文部科学省へ提示していく必要性が提案されました。「B 養成教育の年数について」からは、カリキュラムの流れや順序性が問題点として出され、何をどのように効率的に教えていくのかをこの協議会で検討してほしいと提案がありました。また、「C 現職教育との関連について」からは、養成課程が多様であることから、現場のニーズの把握と対応が必要であり、そのためには大学と現職、教育委員会との連携のモデルケースの提示やコアカリキュラムの定着が必要であると提案がありました。

これらの提案を受けて、会場からは「全国養護教諭連絡協議会などに働きかけて現職教員の意識を高めていく必要」「各グループから出された課題を本協議会が文部科学省へ提示していく必要」「制度が動くときには一気に動くことがあるため、本協議会で意見を蓄積しておく重要性」などの意見が出され、「協議会として、これまで積み上げたもの、研究成果をデータとして示していきたい」と会長から説明がありました。

事後アンケート(72 名)では、「養護教諭養成上の問題が明確になった」「今後やるべき事項が整理できた」



のご意見と共に「効果的戦略をもって行動する必要がある」「協議会の実績を重ねることが重要」のご意見もあり、本協議会の今後の活動に対する期待の高さが示されました。全体報告会は「もう少し聞きたかった」と共有する時間の少なさに対して意見が多くありました。



委員長：後藤ひとみ（愛知教育大学）
 石田 妙美（東海学園大学）
 河田 史宝（金沢大学）
 北口 和美（大阪教育大学）
 宍戸 洲美（帝京短期大学）
 鈴木 裕子（国土舘大学）
 田嶋八千代（岡山大学）
 中桐佐智子（藍野大学）
 三木とみ子（女子栄養大学）



各種委員会報告

「養成制度検討委員会」活動報告

委員長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

5月上旬に開催された第1回役員会において、今年度の養成教育WSは輪番にしたがって「養成制度検討委員会」の担当であることが確認されました。そこで、委員会の活動方針を確認する一方で、WSにむけた準備を行うという慌ただしい船出となりました。その後、7月4日（日）と8月21日（土）の委員会を経て実施の運びとなりましたが、WS直前の8月31日に第4回「教員の資質能力向上 特別部会」が開催されたことを受けて、その資料入手に努め、少しでもホットな情報ができるようにしました。事後アンケートには72名の方がご協力くださいました。改めてお礼申し上げます。半数以上の方が「大いに参考になった」、残りの方も「参考になった」とのご回答でした。「企画の方向性がとても良かった。一貫性があった。」「資料が豊富で役立った。適切だった。」などの嬉しいご意見をいただきましたが、「時間が短い。全体会が慌ただしかった。」などのご指摘もありました。今後は、記述していただいた様々なご意見を参考にして、養護教諭の養成制度に関する課題を整理し、検討していきたいと思っております。

なお、他の委員会との人数バランスを考慮して本委員会は9名で組織することになりましたことをご報告いたします。今後とも、ご支援の程をお願い申し上げます。

「カリキュラム検討委員会」活動報告

委員長 岡田加奈子（千葉大学）

総会后一般公募も含めたメンバー全員が確定し、10月、11月と研究会議を積み重ねております。テーマ等を再度検討し、大きく二つの方向性で研究を開始いたしました。一つはカリキュラム検討から見えてくる教育職員免許法の課題を分析し、新たな時代の教育職員免許法の展望を見出すこと、もう一つは、これまでの養護教諭養成のモデル・コア・カリキュラムの検討を踏まえた「具体的な授業内容と展開」です。メンバーは以下の方々です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

委員長：岡田 加奈子（千葉大学）
 今野 洋子（北翔大学）
 大原 榮子（名古屋学芸大学短期大学部）
 大嶺 智子（杏林大学）
 上村 弘子（岡山大学）
 古賀 由紀子（九州看護福祉大学）
 櫻田 淳（埼玉県立大学）
 西岡かおり（四国大学）
 林 照子（園田学園女子大学）
 矢野 潔子（活水女子大学）



FD 検討委員会 活動報告

委員長 池添志乃 (高知女子大学)

FD 委員会では、前年度までの本協議会の活動を基盤として、「教職実践演習」における履修カルテ、学習ポートフォリオ作成の視点から検討を深めています。第1回FD 検討委員会では、履修カルテ、学習ポートフォリオについて情報交換を行いました。学生の知の統合や主体性の育成、モチベーションの向上等を図る実践を行っていくためには、どのような取組の工夫、課題の検討が必要かについて意見交換しました。9月の総会会場においては、会員校の先生方を対象に「教職実践演習」に向けた準備状況調査を実施させていただきました。現在、その結果を集計し、分析を進めています。分析結果については、11月に開催予定である第2回FD 検討委員会でさらに検討を深める予定です。今後、その結果をもとに各校の履修カルテ等の実践状況を把握し、先駆的な取組を行っている大学へのヒアリングにつなげていきたいと考えています。

なお、本委員会は以下のメンバーで活動していくこととなりました。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員長：池添 志乃 (高知女子大学)
井澤 昌子 (名古屋学芸大学)
大川 尚子 (関西福祉科学大学)
岡本 陽子 (甲南女子大学)
郷木 義子 (徳島大学)
下村 淳子 (愛知学院大学)
田村 裕子 (山陽学園大学)
津島ひろ江 (川崎医療福祉大学)
藤本比登美 (島根大学)
棟方 百熊 (四国大学)



養成大学の展望

大学紹介 北から南

湊川短期大学 基本理念
何事にもくじけぬ不屈の湊川精神、
誠をもって貫き通す強い意志の力”

湊川短期大学 人間生活学科 長谷川ちゆ子

本学は、大正8年「裁縫女塾」として神戸の湊川に創設されましたが、昭和21年に現在の三田市に移転となりました。水難、火災、そして戦災という苦難を乗り越え、昨年湊川相野学園創立90周年の伝統ある時を刻みました。学科は、人間生活学科と幼児教育保育学科があり、人間生活学科では、4つのコース、養護教諭コース、医療事務コンピュータコース、フードマネージメントコース、介護福祉士コースを持っています。また、2つの専攻科、健康教育専攻と幼児教育専攻が併設されています。建学の精神である“何事にもくじけぬ不屈の湊川精神と、誠をもって貫き通す強い意志の力”を基本理念とし、有益な社会人を育成するために教職員一同日々努力しております。

ここからは、養護教諭コースと専攻科健康教育専攻について述べたいと思います。養護教諭コースの学生は、北は青森、南は四国、沖縄と遠方からも来られ、各学年約30名が養護教諭二種免許取得を目指しています。知識・技術の修得に加え、情熱を秘めたやさしく温かい心の養護教諭になってほしいと願い授業を展開しています。養護教諭養成も40年を越え、多くの卒業生が各地で地域の中核となりリーダーとなって活躍しています。兵庫県内の短期大学で養護教諭二種免許が取れるのは本学だけになっています。

専攻科、健康教育専攻(平成19年に新設)は、養護教諭二種免許取得後、2年間の課程を修了すると学士(教育学)と養護教諭一種免許、カウンセリング実務士の資格が取得できます。1年生は6人と少人数ですが、専任教員がマンツーマンでじっくり指導でき、授業ではより実践的な演習が活発に行われています。

採用試験に向けた特別講座では、学年の枠を超えて刺激し合っていて学んでいます。毎年行っている「卒業生と語る会」では、卒業生の講話を聞いた後に、先輩と後輩がグループで語り、絆をより強いものにしていま

す。

自らの経験を掘り起こし、学生の「養護教諭になりたい!」という夢を叶えるために、全力を尽くしたいと思っています。

宮城大学 看護学部 建学の理念「実学主義」



宮城大学 鹿野裕美

宮城大学は平成9年4月に開学し、今年は創立14年目を迎えます。建学の理念としては、「実学主義」を掲げ、高度な実学による教育・研究・社会貢献を使命としています。

本学では看護学部において養護教諭一種免許状を取得することができます。教職課程の履修については広く開放性を敷いており、学年ごとの履修者の差異はありますが、概ね一学年40名前後の履修者数で推移しています。学生は看護学の学びを生かしつつ、教職の単位を修得しています。教職の単位は限られた単位数であり、そのため養護実践力を培うために、近隣の学校でのボランティア活動を活発に行っています。活動内容は、保健室のサポート活動、特別支援にかかわる生徒支援や学校行事の補助等です。この活動は教育委員会の理解、そして養護教諭の先生方の支援を受け、学生たちは多くの経験を重ねています。今後も現場の先生方と協働した養護教諭養成を目指していきたいと思っています。

また看護の専門科目となりますが、4年次の総合実習に「学校看護」という領域が開講されています。本学ではカリキュラム上、4年9月に養護実習が設定されており、7月の教員採用試験は実習前に受験する状況になっています。そのため試験前に学校での実習を経験させたいという必要性に相応し、4年前期科目である総合実習の一領域として、学校看護領域が立ち上がったという経緯があります。しかしながら学校看護実習という領域は、学校における現代的な健康課題の解決にむけて、昨今ますます養護実践が必要とされる領域です。今後はこの実習を通して、学生たちが児童生徒の健康支援の在り方を探求できるように、さらに実習を充実させていきたいと考えています。

養護教諭として採用された一期生たちも、今年は採用後10年という節目の年を迎えました。卒業生からも大学に経験知を還元していただき、今後も養成教育の力を高めていきたいと思っています。

愛知学院大学大学院 心身科学研究科 健康科学専攻 博士前期課程/博士後期課程



愛知学院大学 下村淳子

心身科学研究科健康科学専攻博士前期(修士)課程は平成20年に新設され、社会人学生を含め現在11名の学生が在籍しています。健康科学専攻の修士課程では内科学などの臨床医学、ゲノム医科学をはじめとする基礎医学、スポーツ医学や運動生理学などの広範囲の学問領域をベースに新しい健康科学の教育・研究をしています。前期課程を所定の単位を取得し修了すれば、養護教諭や保健体育教諭の専修免許が取得できます。

本年度4月からは博士後期課程も開設され、直進の学生1名を含む3名が1期生として入学しました。そのうちの1人が私です。社会人入学生として、昼間は学生指導をしつつ、夕方や土日は学生として学んでいます。以下、学生の視点で本学大学院博士後期課程の紹介をいたします。

博士後期課程の授業は4科目24単位あり、主に木曜と金曜日の5限、土曜日の終日に開講され、研究指導以外の授業はいずれも30回の授業を複数の先生で担当するオムニバス方式で進められています。授業内容は健康科学分野の最新の知見を得るという「先端健康科学特論」、学位論文作成に向けた英語文献の読解や書き方、英語による討論の仕方を学ぶ「健康科学研究方法論」、研究手段の領域を広げるために様々な実験方法を体得する「健康科学実験方法実習」などです。いずれの講義も私の能力を超えるものばかりで、理解するのに苦労していますが、受講者は私一人という時も多いことから、丁寧にわかりやすく解説してもらっています。

教員と学生という2足の草鞋を履く生活は、時間のやりくりをする上で大変でしたが、半年経った今では両方の立場を上手に使い分けて楽しむゆとりもできました。それでも学生ですから、宿題・課題もあります。発表の準備や実験後のグラフ作成や考察、英語文献の翻訳など、毎回ヒヤヒヤしながら受講しています。年度末に向けて、英文抄録の作成と英語によるプレゼンテーションが課されており、大きな宿題にとまどいながら準備しているところです。卒業までの2年半、学生としての立場を最大限に生かしながら、研究活動に精進していきたいと思っています。



理事選出のための選挙についての 活動経過報告

総務担当副会長



後藤ひとみ (愛知教育大学)

2011年度には理事の改選が行われます。これに伴う業務は、「日本養護教諭養成大学協議会理事選出に関する規定」に定められていますが、具体的には、①選挙管理委員の選出・選挙管理委員会の発足、②選挙期日の決定・告示、③会員大学における評議員及び代表評議員の登録、④被選挙者名簿の作成、⑤投票、⑥開票、⑦当選者への通知・承諾、⑧総会での承認といった流れで進められます。

同規定の第1条により、役員会は会員の中から3名の選挙管理委員を委嘱し、9月3日の総会で承認していただきました。大川尚子先生(関西福祉科学大学)、岡本啓子先生(畿央大学)、北口和美先生(大阪教育大学)です。これまでの選挙管理委員が関東地区から選出されていたこと、委員会開催の費用と時間を節約する必要があることから、今回は関西地区から選出しました。先生方には10月10日(日)に大阪で開催された学会会場にお集まりいただき、互選によって北口委員長を選出していただきました。その際、役員会で承認した選挙スケジュール及び実施方法等に関する資料をお渡ししましたが、具体的な準備については11月末に前選挙管理委員会委員長を交えて確認する予定です。上記②については、選挙期日は役員会が決定し、会長が会員大学に告示する運びとなります。今後も関連記事をNewsletterまたはHPに掲載してまいります。ご確認の上、ご支援とご協力の程をお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

ホームページ担当より次年度に向けて

池添志乃 (高知女子大学)

本協議会の広報活動の一環として開設したホームページも今年で3年目を迎えました。

日本養護教諭養成大学協議会の会員校も増え、ホームページでは今後も、よりホットな話題や本協議会の活動の様子などの情報発信をし、本ホームページが会員相互のつながりを深めるネットワークの1つとなっていくよう努めていきたいと思っています。またぜひ

皆様の声をお寄せください。次年度もどうかよろしくお願いたします。なお、9月に開催されました総会および養成教育ワークショップの様子も写真とともにホームページに掲載しています。またぜひご覧ください (<http://www.j-yogo.jp/>)。



会計から

中桐佐智子 (藍野大学)

2010年度の現在の会員校は、短期大学13、大学91の104大学です。

会費の納入状況は現在のところ、少数ながら未納入の大学があり、年度内での納入をお願いしているところです。

また、新たに養護教諭の養成を始めている大学は増加傾向にあります。未加入の大学の会員勧誘を計画しておりますが、皆様の近隣の大学に対しましてお勧め下さいますようお願いいたします。



編集後記

赤や黄色の葉ですっかり秋色になったキャンパスです。さく、さくと落ち葉を踏んで聞こえる足元の音と、空いっぱい広がる青空に、今年もあと1ヶ月であることに気づくと同時に、この一年を振り返ってみました。この協議会も新役員になって初めての総会が終わり、養成教育の新たな課題に向けて本協議会や各委員会が動き始めました。また、ワークショップでの話し合いからも、全国の協議会会員校104校が次年度に向けて取組みが展開されていくことと思います。

全国の会員校の先生方がこのニューズレターを読んで、共に養護教諭の養成に励みたいものと思っています。この一年ありがとうございました。また、次年度もよろしくお願致します。ピョンと跳ね、飛躍できる一年になりますように！

櫻田 淳 (埼玉県立大学) 大原榮子 (名古屋学芸短大)

日本養護教諭養成大学協議会ニューズレターVol.13
発行 日本養護教諭養成大学協議会
編集責任者 高橋 香代 (岡山大学)
E-mail: kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp
連絡は月・火・木にお願いします。

